

後輩たちへのエール！ その56

2022年3月24日

失敗ばかりだった自分が後輩たちに伝えたいこと

◇今回は、長尾拓真さん（愛知淑徳大学健康医療科学部）からのメッセージです！

こんにちは！ 私は2018年の3月に関高校を卒業した長尾拓真と申します。現在、大学4年生で、先日卒業式を終え、4月1日からの新社会人デビューを控えています。

私は、4月から、岐阜県の公立中学校の保健体育の教諭になります。現在この文章を書いているのは2022年3月。コロナ禍の中、外出もなるべく控え、時間をかなり持て余している大学生です。そんな状況を見透かされているかのように、恩師の先生から、文章の依頼を受け、断る理由があるはずもなく、書いています。

他の方々の文章を拝読して、多くの方が立派な大学に進学され、充実した生活を送って見え、素晴らしい卒業生だと感じています。私は、そこまで優秀な生徒ではなく、受験にも失敗した身なので、偉そうに「後輩へエール」と言われても恥ずかしいですが、一生懸命考えました。こんな失敗ばかりだった自分でも、なんとか岐阜県教育委員会に採用していただき、社会人の仲間入りができます。

「関高生、関高校を目指す中学生へ」という内容指定でしたので「関高校を目指したわけ」「関高校での生活」「大学生活」の大きく3つに分けて書いていこうかと思います。

「関高校を目指したわけ」

私は美濃市在住で、美濃学区のトップ校といえば「関高校」という、そんなイメージを持っていました。また、家族全員が関高出身なので、漠然と関高に行きたいと思っていました。本気で関高を目指したのは中学3年生の時でした。僕が在籍していた美濃中学校バレーボール部は、仲間にも本当に恵まれ、東海大会を本気で目指せるくらいの高いレベルでした。バレーボールを極め、それで高校に進学するのもひとつの手とも一瞬思いましたが、より将来への選択肢を広げられる、関高校を選びました。

「関高校での生活」

高校に入学して感じたことは、中学生の時は、そこそこ勉強が得意でしたが、自分より成績のいい子がうじゃうじゃいて驚きました。課題も多く小テストもほぼ毎日あり、毎日課題を少しずつ進め、明日の小テストに向けての勉強をする、そんな生活でした。

中学生生活とのギャップで苦労をしましたが、充実した日々を送ることができました。やっぱり関高に入ると、私自身、成績が良い部類ではなく、どちらかというと落ちこぼれでした。勉強ができないことを部活のせいにしていた時期もありました。でも、先生やクラスメイトに恵まれ、なんとか3年間やり切りました。

部活動では、私が所属していたバレーボール部は、専門の先生がおらず、部長を中心に練習メニューを組んでいました。私はバレー歴が長かったので、ありがたいことに1年生の時から多く試合に出させてもらいました。今度は勉強の時とは違った中学とのギャップで、下級生ながら、何度も先輩方に不満をぶつける時があり、今思えば当時の先輩に本当に迷惑をかけていたと思います。もし今後、お会いする機会があれば、全力で謝りたいと思っています。

部活動を通じて、自分たちで考え、実行する力がつきました。部活も全力で取り組み、勉強も落ちこぼれなりに必死にやり、部活も勉強もともに頑張ることで、どちらも成長できたと思っています。



男子バレー部訓 「文武不岐 日々鍛錬」

「大学生活」

私は愛知淑徳大学健康医療科学部スポーツ・健康医科学科に進学しました。もともとは国立の教育学部志望でしたが、受験に失敗し、私立に通うことになりました。初めは受験に失敗したことに負い目を感じ、私立に進学することで両親にも負担をかけさせてしまい、本気でもう一度受験を考える時期もありました。

そんな気持ちで新生活を始めたので、なかなか周りに馴染めませんでした。また大学生生活の半分はコロナのご時世だったので、正直、大学の思い出は、ラーメン屋でのアルバイト、母校に行った教育実習、教員採用試験に向けての勉強しかありません。

大学は自分から何か進んで行動を起こさないと、何も思い出もなく4年間が終わってしまいます。私はとにかく「私立に通わせてくれた両親の恩返しのために一発で採用試験に受かる」と強い気持ちを持ちながら、必死に採用試験に向けての勉強、取り組みをしてきた大学生活でした。

取り組みとは、大学4年間、母校の美濃中学校のバレーボール部のコーチとして、部活動のお手伝いをしたことです。とにかく何かしないといけないと思い、将来の仕事に向けての勉強だと考え、部活動指導を行いました。今の中学生と関わりを持てたことは、とても良い経験にもなりましたし、採用試験の面接でも自信を持って話せました。



最後に

人にもよりますが、受験結果の良し悪しで大学に対するモチベーションが変わり、特に何もない4年間になってしまいます。「自分の4年間、本当にこれでよかったのか」と、ふと思うことがあります。

充実した大学生活を送るためにも、みなさん、とにかく勉強を頑張ってください。某塾の回し者ではありませんが、今やってください。今の後回しがこれからの人生の後悔になるかも知れません。希望した進路に進めなかったとしても、そこでできる最大限のことを取り組んでください。学校、大学に行くことは当たり前ではありません。家族や両親の支えがあってこそだということを忘れないでください。私は、受験を失敗したからこそ、このことを強く感じました。

そして、今隣にいるクラスメイト、友達を大切にしてください。「高校での友達は一生の友」です。22歳の若造が何言っているのだと思われるかもしれませんが、私は、友達の学びに向かう姿勢や、進学に向けて努力する姿に何度も感化され、自分のモチベーションにしていました。あの地獄のような受験期には何度も心を折れかけましたが、問題を出し合ったり、休み時間にしょうもない話をしたりと本当に心の支えになりました。

高校生という、人生を大きく左右する時期を友達とともに味わい尽くし、将来の自分が後悔しないためにも、頑張ってください。

そして関高校100周年、おめでとうございます！

平成30年度卒業生 長尾拓真



球技大会の思い出 クラスの仲間たちと